

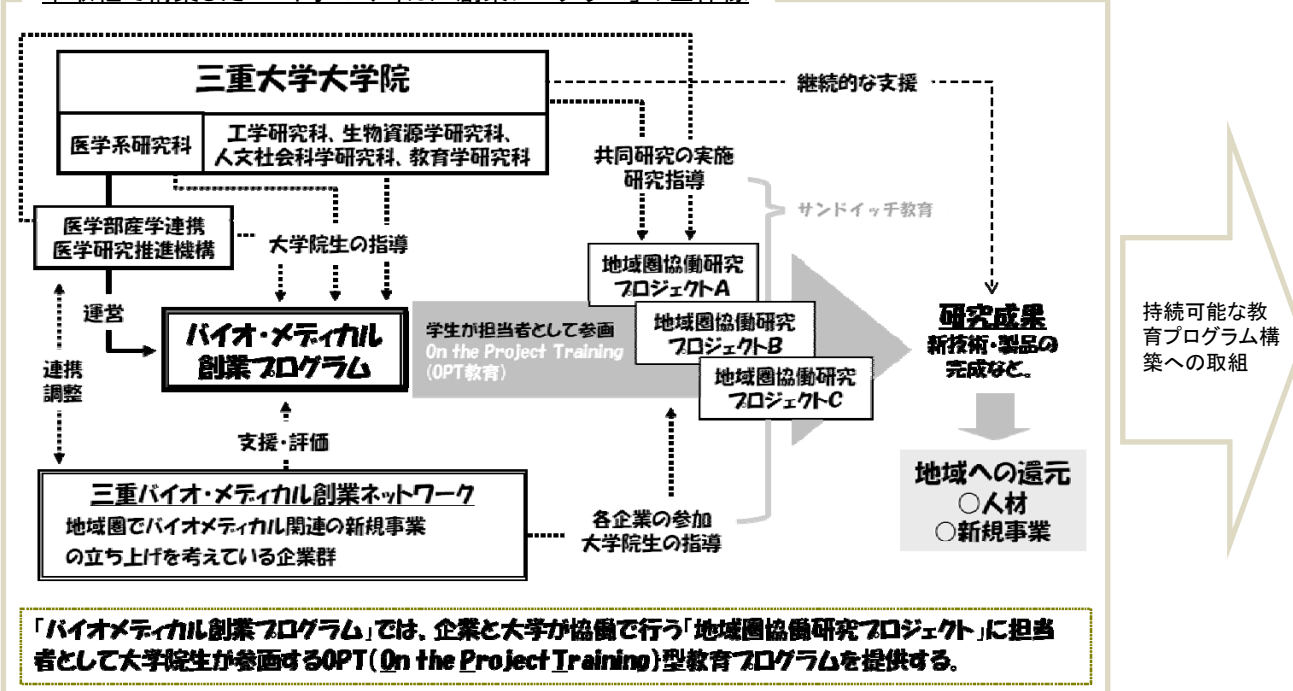
# 三重大学

## 取組名称: 地域圏バイオ・メディカル創業人材の育成

### 【取組概要】

本事業では、三重大学大学院医学系研究科修士課程に2年間の教育プログラムとして「バイオ・メディカル創業プログラム」を新設し、「高度科学知識を有する起業家タイプの人材」の育成を目的とする高度人材教育を実施した。本教育プログラムでは、三重県地域の企業と三重大学が連携して行う共同研究などのバイオ・メディカル関連の新事業開発を目的とした取組(地域圏協働研究プロジェクト)の遂行に、学生を主担当者(企業側開発者のインターン的な存在)として参加させ、プロジェクト立案から完成までを体験させる「On the Project Training(OPT)型教育」を実施することで、高度専門人材としての能力を養成することを特徴としている。実践教育では、医学系研究科で基礎研究を行っている研究者による基礎科学的な教育に加えて、ビジネス界でのマネジメント経験を有するプロジェクト・マネジメント教員が一人の学生を挟み込むように教育を行う「サンドイッチ型教育」を提供することにも特徴がある。

本取組で構築した「バイオ・メディカル創業プログラム」の全体像



### トランスレーショナル医科学の設立 (平成19年1月)

\* 常勤教授を採用し、バイオ・メディカル創業プログラムを永続実施する体制を確立した。

### メディカル・ビジネスPh. D.プログラムの設立 (平成19年4月)

\* バイオ・メディカル創業プログラムを医学系研究科博士課程に展開する教育プログラムを確立した。

### 地域イノベーション学研究科の設立 (平成21年4月)



\* バイオ・メディカル創業プログラムの教育コンセプトを全学展開するための体制を確立した。

### 【成果等】

「バイオ・メディカル創業プログラム」による教育効果が期待以上に高かったことから、三重大学は、産業界が求める即戦力型人材である「プロジェクト・マネジメントができる研究開発系人材」の育成に特化した大学院として、「地域イノベーション学研究科(博士前期課程2年、博士後期課程3年の区分制大学院)」を平成21年度に開設した。地域イノベーション学研究科は、医学系研究科が継続している「バイオ・メディカル創業プログラム」と共に、本取組が目標として掲げていた「三重大学オリジナルの特徴的な大学院プログラムを構築する」ことを示す成果である。また、地域イノベーション学研究科を設置出来たことで、本取組にて構築した新たな考え方の実践教育である「OPT教育」と「サンドイッチ教育」を三重大学にて永続的に実施するための体制を構築することができた。

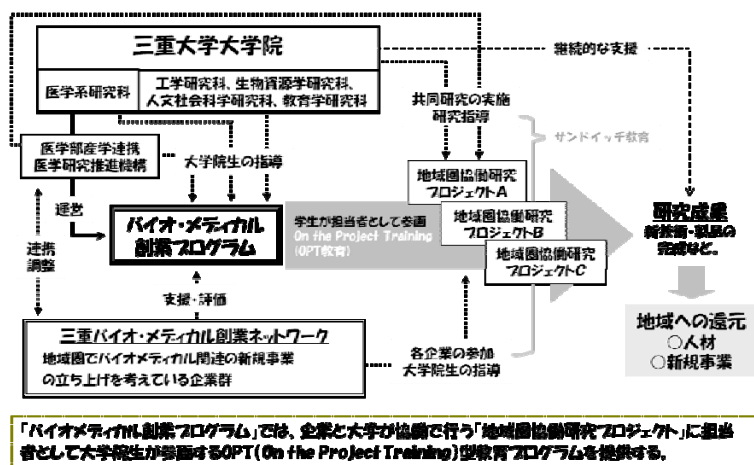
## 産学連携による実践型人材育成事業 ―長期インターンシップ・プログラム開発― 最終評価結果

<b>大 学 名</b>	三重大学
<b>教育プロジェクト名称</b>	地域圏バイオ・メディカル創業人材の育成
<b>事業責任者</b>	医学系研究科・教授 西村訓弘

### 事業概要

本事業では、三重大学大学院医学系研究科修士課程に2年間の教育プログラムとして「バイオ・メディカル創業プログラム」を新設し、「高度科学知識を有する起業家タイプの人材」の育成を目的とする高度人材教育を実施した。本教育プログラムでは、三重県地域の企業と三重大学が連携して行う共同研究などのバイオ・メディカル関連の新事業開発を目的とした取組(地域圏協働研究プロジェクト)の遂行に、学生を主担当者(企業側開発者のインターン的な存在)として参加させ、プロジェクト立案から完成までを体験させる「On the Project Training (OPT)型教育」を実施することで、高度専門人材としての能力を養成することを特徴としている。実践教育では、医学系研究科で基礎研究を行っている研究者による基礎科学的な教育に加えて、ビジネス界でのマネジメント経験を有するプロジェクト・マネジメント教員が一人の学生を挟み込むように教育を行う「サンドイッチ型教育」を提供することにも特徴がある。

本取組で構築した「バイオ・メディカル創業プログラム」の全体像



トランスレーショナル医科学の設立  
(平成19年1月)

\* 常勤教授を採用し、バイオ・メディカル創業プログラムを継続実施する体制を確立した。

メディカル・ビジネスPh. D.プログラムの設立  
(平成19年4月)

\* バイオ・メディカル創業プログラムを医学系研究科博士課程に展開する教育プログラムを確立した。

地域イノベーション学研究科の設立  
(平成21年4月)

持続可能な教育プログラム構築への取組



\* バイオ・メディカル創業プログラムの教育コンセプトを全学展開するための体制を確立した。

### 最終評価結果

(総合評価) A: 所期の計画と同等の取組が行われた

#### コメント

##### 《優れた点》

1. 高齢化社会の進展を背景に、健康の維持・増進において重要となるバイオ・メディカル創業人材の育成に焦点を合わせた取組は、有効な成果を生み出したと判断できる。このことは、地域振興のイノベーションという、より幅の広い教育・研究の拠点として、地域イノベーション学研究科という新しい研究科の設立に繋がったことから明らかである。また、産学だけでなく県の協力を得られている点も評価できる。

##### 《改善を要する点》

1. 連携先の企業に当プロジェクトの目的が十分理解されていないため、プロジェクト遂行にあたり県からの資金支援を受けざるを得なかった。また、選定領域が限定され、履修者が比較的少なかった。更に派遣期間がやや短く、不十分の感が否めなかったこと等は今後の課題として改善すべき点である。